

全食リ事務連

食リネットワーク拡大へ

地域ブロック制が始動

でく 中開 海合 東初

は、地域の農政局や環境事務所、市町村と連携しながら地域ネットワークを構築することを目指す。松岡事務局長からは冒頭に「各ブロックの年間スケジュールが決まり次第、農水・環境両省にも日程を伝えて調整していきたい」と説明があった。

予定している全国総会のほかにブロック会議を2、8、11月の年3回行うとの案が了承され、「地方農政局、地方環境事務所と共同で開催し、市町村にも案内できれば理想的」（行政を巻き込んだ）魅力のある会議にできれば会員の増強につながる。などの声も上がった。

食リサポーターに参画環境省の中部地方環境事務所では今年、食リサイクリルの取り組みを表す愛称「めぐりふーど」とそのシンボルマークを定め、食リサイクリルの取り組みについて認知度の向上を図っている。管内で食リに取り組む事業者などにシンボルマークの使用を許可して「食リサイクリル推進サポーター」とする制度も立ち上げた。

同ブロックの会員に活動と連動しながら会の拡大にもつなげていきたいところ。今回の会議では「中部発のシンボルマークを全国で使えるように持って行きたい」との意見も出た。

・全国食リサイクル・登録再生利用事業者事務連絡会（全食リ事務連、石島和美会長）の東海・中部・近畿ブロック協議会は11月9日、愛知県飛鳥村の小桝屋飛鳥営業所で第1回会合を開催した。他地域に先駆けて行われた最初の地域ブロック会議で、ブロック長を務める三功代表取締役・片

野宣之氏の司会のもと、今後の組織強化や普及啓発について意見交換を行った。会議には三功（津市）をはじめ、東海・中部から杉山（静岡市）、花岡商事（愛知県豊田市）、フジ商事（同県江南市）、オカワ農材（愛知県田原市）、小桝屋（愛知県弥富市）、イカ再資源化事業研究所（三重県伊賀市）、東海環境サーブिस（同県桑名市）の正会員8社の担当者、賛助会員の環境テクニクス（愛知県豊川市）が参加。事務局からは、松岡力雄事務局長が出席した。



熱い議論が交わされた地域ブロック会議の様子

地域ブロックを起点にした地域連携に向けて